

をしながら盲聾者のボランティアに励み、のびのび  
できています。日本の福祉はまだ人々の心  
にしみ込んだものではないのでしよう。社会的に弱

者といわれる人や取り巻く人達とはもつと多くの笑  
顔が交わり合えるよう願うものです。

(宮城教育大学)

## 理想的でなくてもいい、 多少でも笑えれば

土屋 賢二

理想的なスピーチの条件は何だろうか。わたしは  
次の項目をできるだけ多く満たすようなスピーチが  
理想的なスピーチだと思う。

- ① 人々に感動を与える
- ② 人々に教訓を与える
- ③ 人々に楽しさを与える

④ 人々にお金を与える

⑤ 世界の真理を解き明かしてくれる

⑥ 驚天動地の暴露話を含んでいる

⑦ よく眠れる（八時間たっぷり熟睡できる）

⑧ 食欲増進効果がある（スピーチしている人の料理まで食べてしまえる）

⑨ 短い（「おめでとうございます」だけで終わる。できれば「お」だけで終わる。さらにできれば、本人が病気で欠席し、代理もこない）

⑩ 何らかの事情で式典そのものが取りやめになる

だが、理想というものは実現しないのが、この世の鉄則である（実現しないものを「理想」と呼んでいるのだ）。わたしのスピーチが理想的でないのも、この鉄則に従った結果である。わたしは非常に忠実に鉄則に従っているため、理想からほど遠い結果になっている。ただ、笑ってもらえる、あるいは笑われるスピーチになることはある。以下はその実例で

ある。

（注）ここでO先生とは、かつての同僚である。赤ら顔、よく通る声、「ホッ、ホッ」という笑い声、「美談、美談」という口癖、グルメ、肥満ぎみ、という特徴がある。なお、人物を特定できないよう、これらの特徴は実際とは変えてある。T先生は女性の同僚である）

★O先生・T先生 還暦祝賀会

本日はおめでとうございます。還暦と言っても、十二支が五巡するということで、わずかに五巡にすぎません。もし十二支が八十年単位だったら、まだ一巡もしていないということになります。このようにいつても何のお祝いにも慰めにもなりません。

ポプ・ホープはどんな年をとったと感じるか  
と訊かれて、「バースデー・ケーキのケーキ代よりもロウソク代の方が高くつくようになったとき」と答えました。わたしなら「バースデー・ケーキの

ケーキとロウソクの区別がつかなくなったとき」  
と答えたところです。もちろんお二人ともこのよう  
な状態になるにはほど遠く、すくなくともあと二、  
三年は大丈夫だと思えます。

○先生はこれまでお茶大の要職を数々歴任してこ  
られました。いまやお茶大の大黒柱というか、お茶  
大の重鎮というか、あるいはむしろお茶大の小錦と  
いった方がいかもしれません。とにかく先生は、  
よく働き、よく教え、よく食べる、の三拍子そろっ  
ておられ、先生の身体を分析すれば、脳と胃袋と脂  
肪が主な成分であることが分かるのではないでしょ  
うか。先生を拝見するにつけ、大学の教師にしてお  
くのはもつたないなと思ってしまう。もし相  
撲の世界に入っておられたら、おそらく今ごろは十  
両力士の付人ぐらいにはなれたのではないでしょう  
か。

↑先生はこちらにお見えになってからまだ日が浅  
いのですが、高い見識の持ち主であると思えます。

会議などで先生がなさる発言にはどきつとするもの  
があり、先生が発言されるたびにわたしは学科主任  
としてハラハラしております。

また先生は洞察力にすぐれた方で、先日もここに  
おられる吉田夏彦先生とわたしが盗聴器や暗闇でも  
見える双眼鏡の話をしておりましたら、運悪く↑先  
生がそばで聞いておられ、批判的な笑みを浮べてい  
らっしゃいました。わたしが「こどもだと思ってい  
しょう」といいましたら、先生は深くうなずいてお  
られました。これほど正確に吉田先生の本質を見抜  
ける人がはたして何人いるでしょうか。きっと何人  
もいるでしょうが。

まったくお祝いのことばにはなりませんでした



が、両先生がこれからもますます御活躍なさることをお祈りしております。

★〇先生退官記念パーティー

御退官おめでとございます。これだけ盛大な退官記念パーティーは初めてです。これも先生のお人柄のたまものだと思います。これをもとにして考えますと、わたしが退官するときは、たぶん東京ドームにいったい集まった人々にまじって、一人さびしくプロ野球のオープン戦を見ていることでしょう。

先生はお茶の水女子大に多大の貢献をしてこられました。学生部長をはじめ数々の要職を歴任されました。これらの激務だけで大変なのに、それに加え、他にもやることを一杯抱えておられました。文部省の仕事もされていらっしやいましたし、授業をし、学生指導をし、旅行の引率をし、酒を飲まなくてはなりません（倫理の場合は、主として旅行と酒によって学生を指導しています）。さらに料理を大

量に食べ、口癖の「美談、美談、ホッ、ホッ、ホッ」を連発するなど、多くの仕事をこなしてこられました。

これだけ仕事を抱えていたら、わたしなら青い顔をしてヒーヒーいつているところですが、先生は顔色一つ変えるということがありませんでした。青い顔ができなかつたのかもしれない。また、「ヒーヒー」といおうとしても「ホッ、ホッ」になつてしまふのかもしれない。

学生から聞いた話ですが、学生がエレベーターに乗っていて、もう一台のエレベーターとすれちがったとき、〇先生の笑い声が聞こえてきたそうです。そのとき先生の声がドブラー現象を起こしていたそうです。わたしも一階でエレベーターに乗った途端に、六階の助手室におられる先生の笑い声が聞こえたことがあります。

しかし、それくらい、先生は明るく、陽気で、学科の雰囲気を非常に明るくしていただきました。何

という美談でしょうか。

先生のご機嫌にはむらがないことも驚きでした。いつも陽気で、酒を飲んでも、ビールを飲んでも、ワインを飲んでも、どの場合でも、うれしそうな御様子は同じでした。

とくに厳しい状況が訪れたときも同じでした。たとえば、不合理な原因で学科の全員が一週間無駄に働かなくてはならなくなったことがあります。その場合でも、こともなげに、「一週間働きゃいいんですから。どうってことないですよ」とおっしゃっていました。わたしたちはこれによつてずいぶん元気づけられました。わたしも見習って、学生に「一年留年すりゃいいんですから。どうってことないですよ」と言えるようになりたいと思います。

このように、大学に多大の貢献をされただけでな

く、哲学科の精神的支柱になっていたいただきました。先生、長い間ありがとうございました。いつまでもお元気で、ご活躍されることをお祈りしております。

(お茶の水女子大学)

